

庄内中高一貫校(仮称)教育基本計画に係る保護者等説明会【鶴岡市会場】記録(要旨)

1 日 時 令和2年10月13日(火) 午後6時30分から午後8時15分まで

2 場 所 鶴岡市中央公民館(鶴岡市みどり町22-36)

3 出席者 地域の方々 161名

県教委 片桐教育次長、生島高校改革推進室長、奥山高校改革推進室長補佐

丹野高校改革主査、佐藤高校改革主査、安達高校改革主査

4 内 容 生島室長から説明後、質疑応答

5 質疑応答の概要

(質問・意見)

- ① 併設型中学校から併設型高校に進学するにあたり、学力試験が無いことから、学力低下が懸念されるが、その対策はどのように考えているか。
- ② 高校での少人数授業により科目数が多くなることから、大学受験にあたり受験科目の確認をするなど、進路指導において生徒一人一人をサポートする必要があるのではないか。

(県教委)

- ① 他県の事例として、高校入選がないことから、中だるみするとの課題が指摘されている。具体的な対策については、今後、他県の事例等を参考に検討していくことになるが、日々の授業の中で、知的好奇心に訴え、学習への動機づけを高めるような実践を積み重ねていくことが重要である。また、定期考査や学力推移調査、スコア型の語学力テストなどを実施し、短期的な目標を持たせて学習に取り組みせることも重要であるとする。
- ② 大学受験にあたり生徒一人一人に適切な進路指導をすることは、これまで同様大切なことである。現在、技術革新が進み、進路実現をサポートする様々なコンテンツが開発されている状況にあり、これらを活用していきたいと考えている。

(質問・意見)

- ① 中学校の入学者選抜において、学力試験を行わないとのことであったが、そうした場合に、現在の鶴岡南高校と鶴岡北高校のレベルが維持されるのか。
- ② 高校入学段階のレベルは、現在の鶴岡南高校と鶴岡北高校のレベルと考えて良いか。

(県教委)

- ① 中学校の入学者選抜においては、庄内中高一貫校(仮称)の教育理念に沿った適性検査が実施される。入学した生徒については、6年間の継続的・計画的な指導により、教育基本計画の育てる生徒像にある資質・能力を育成するとともに、生徒一人一人の個性・能力の伸長を図っていく。

- ② 学校のレベルという考え方で学校づくりをしていないことを御理解いただきたい。ただし、生徒集団としては、鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合校であることから、現状と同じような生徒が集まってくるものと予想される。現在の鶴岡南高校及び鶴岡北高校で行われている教育実践を踏まえて、これからの時代に求められる資質能力、地域の期待等も含めて、具体的な取組みについて検討しているところである。

(質問・意見)

- ① コロナ禍において ICT の活用が話題になるなど様々な変化や対応が求められているところであるが、現在の鶴岡南高校と鶴岡北高校のレベルは維持されていくのか。
- ② 生徒の登下校に関して、中学生にとって大きな負担となることから公共交通機関の整備や、送迎にあたっての鶴岡南高校及び鶴岡北高校の周辺道路の拡幅等について、どのように考えているか。

(県教委)

- ① 学校のレベルという考え方には立っていないが、鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合校であることから、現在のニーズと同じような生徒が入学してくると思われる。両校の強みを生かしながら、生徒・保護者のニーズや地域の期待に応える教育プログラムを作成できるよう、現在、検討しているところである。

ICT については、学校と家庭を結ぶオンラインでの活用等が話題になっているところであるが、非常時の対応としてオンラインでの活用が考えられるものの、基本的な考え方としては、学校の授業において、生徒の学びを深めるツールとして、また、生徒が思考する時間を多く確保するための道具として、ICT の有効活用を想定しているところである。

- ② 通学に関する内容については、御意見として頂戴する。なお、県がスクールバスを運行するにあたっての課題としては、通学区域が広域になることからどの地区にも公平に制度設計することが難しいこと、特定の高校に導入した場合その高校が有利となることから県内一斉に導入しなければならないこと、また、そうした場合の民間業者への圧迫などが考えられるところである。

東桜学館中学校・高校の開校準備の段階で、西村山地区からの通学にあたって、公共交通機関の整備の要望があったが、自治体の対応として町営バス、市営バスを運行していただいたところである。また、民営のバス会社には、バス停を学校の近くに設置する対応をしていただいた。このようなことから、多くの生徒がバスを利用する前提があれば、路線ルート等の検討をバス会社に働きかけていくことは可能である。

(質問・意見)

- ① 自転車通学は可能なのか。
- ② 高校の理数科について、併設型中学校からの入学者の枠を設定するのか。
- ③ 併設型中学校では先取り学習をすることから学習の進度差があるが、高校入学段階で、市町村立中学校からの入学者とのクラス分けは、どのようにするのか。

- ④ 55分授業としているが、1日の流れとしては、東桜学館のパンフレットにある内容を参考にしたいか。
- ⑤ 高校は、週32時間を基本とするとあるが、週2回は7コマの日があると考えて良いか。
- ⑥ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）は、理数科だけが対応となるのか。
- ⑦ 部活動について、中学校は1学年99名と少ない人数で活動することになるが、高校と一緒に活動することを考えているか。

(県教委)

- ① 自転車通学は、可能である。
- ② 現在の鶴岡南高校では普通科及び理数科をまとめ募集として一括で募集し、2年生になるときに普通科と理数科に分けている。一方で、山形南高校は、募集の段階から普通科と理数科に分けて募集している。併設型中学校からの進学者は高校の一般入選の前に入学を内定することになるが、どのような制度設計にするかについては、課題等を整理しながら検討を進めているところである。
- ③ 高校入学段階のクラス分けについては現在検討中であるが、事例としては、東桜学館高校の場合、1年次はHR教室を別におり、他県では1年次からHR教室を混合とし必要に応じて進度や習熟度による少人数での授業を実施している例もある。
- ④ 東桜学館中学校のパンフレットにある形で1日の流れをイメージして良いが、電車の到着時刻等によっては、開始時刻が異なることも考えられるので、今後、日課の決定にあたっては情報収集をしながら検討を進めていく。
- ⑤ 週32コマを基本とするとあることを考えれば、基本的に週2回は7コマの日があるということになる。
- ⑥ 普通科も含めた学校全体の取組みによってSSHに認定されていることから、理数科だけでなく、学校全体で取り組んでいくことになる。
- ⑦ 中高で一緒に部活動をするのは、十分に考えられる。東桜学館中学校・高校では、すべてではないが、運動部、文化部ともに、必要に応じて中高で一緒に活動している状況にある。

(質問・意見)

多くの生徒が大学進学などによって県外や他地区に出ていき、結果として地元でどれくらいの人が残るのか心配である。若い人の地元定着は3割程度になるのではないかと考えられるが、何かデータのようなものはあるか。

(県教委)

人口の出流入に関して、データとしてしっかりしたものはない。庄内中高一貫校（仮称）は、地域社会や国際社会を牽引する人、支える人を育てる学校を目指し、探究型学習においては、庄内の地域資源をもとに課題解決を図る学習を展開していく。このような教育活動によって、地域に根ざした活動に継続して取り組む生徒が出てくることも十分に考えられる。

(質問・意見)

中高一貫教育校になることにより、教員にも変化が求められるわけだが、研修や人事等、教員の構成についてどのように考えているか教えてほしい。

(県教委)

併設型中学校の教員の人事については、他市町村と同じように進めていくことになる。教員の研修は、現在でも十分に行われているところであるが、ICT の活用等、これからの時代にふさわしい指導の在り方については、さらなる研究が必要になってくるものとする。

東桜学館中学校・高校の場合には、前身の楯岡高校の教員研修として、宮城県の併設型中高一貫教育校の古川黎明中学校・高校、仙台二華中学校・高校に行き、授業の様子などを視察するとともに、具体的な指導の在り方を学んでくる機会を設けた。今後の開校準備の中で、他県の多くの併設型中高一貫教育校の事例から学び、様々な検討を重ねることで、オリジナルの学校のスタイルが出来上がってくるものとする。また、中学校については、現在も現場の先生方から開校準備をお手伝いいただいているが、開校前年度には、開校準備室のメンバーとして中学校の教員に入ってもらい、研修を重ねることで、開校後は独自スタイルの構築にあたって、中心的な役割を担ってほしいと考えている。

(質問・意見)

- ① 先進校視察・意見聴取の中で、当時の千代田区立麴町中学校の工藤校長先生から意見をいただいているようであるが、どのような内容であったのか。また、固定担任制の廃止や定期テストの廃止などが著書にあるが、庄内中高一貫校（仮称）では、具体的に取り入れていく予定はあるか。
- ② 基本理念に多様性という言葉があるが、男女格差などについて学校が率先して是正していくべきである。具体的には、制服の自由性について検討してほしい。全国的には多くの学校で女子のスラックスが導入されるなどの動きがあり、基本理念に自主自立を掲げるのであれば、私服での登校を認めるといったことも検討すべきだと思う。また、県内の高校でも、同様の検討を進めてほしい。

(県教委)

- ① 工藤校長の著書にある内容を主として、様々な示唆をいただいたところであるが、基本的な考え方として、「最上位の目標・目的」から考えて、「具体的な手段」に落とし込む考え方をぶれずに行うことが重要であるとお話しをお聞きしたところである。基本理念は最上の目標であることから、今後の開校整備委員会や開校準備委員会では、この基本理念の実現のために、様々な方法を取り入れながら具体的な手段を検討していくことになる。
- ② 多様性を尊重する考え方については、ダイバーシティ教育も視野に入れていきたいと考えている。制服については、「目的」から考え、制服を採用するかどうかから検討していくこととしている。

(質問・意見)

制服に係る費用や教材費等について、家計の負担にならないような学校づくりをお願いしたい。

(県教委)

家計の負担について、これまで開校した高校の開校準備においても、できるだけ費用を抑えられるよう検討してきた。制服については、制服を採用する場合には、生徒や保護者を含めて多くの方々から意見を参考して決定していくことになる。

(質問・意見)

既存の学校にも魅力的な学校づくりをしている学校もある。そのような学校も多くの人に分かってほしいと思う。

(県教委)

それぞれの学校に良さがあることは十分認識しているところである。ちなみに、平成 30 年に東桜学館中学校の中間評価として、近隣の中学校にアンケートを実施した際には、「東桜学館中学校が開校したことによって、自校の魅力づくりにつながった」との回答があった。高校においても、それぞれの学校の特色を打ち出しており、中学生の進路選択においては、自己の適性にあった高校選びができるようにしているところである。

(質問・意見)

併設型中学校から併設型高校に進学しない場合もあるのか。また、その場合、併設型中学校で受検指導を行うのか。

(県教委)

併設型中学校から併設型高校に進学しないことは、制度上可能である。ただし、不合格だった場合には、戻ってくることはできない。併設型中学校を受検するにあたっては、6年間の計画的・継続的な指導により個性や能力の伸長を図る、中高一貫教育の趣旨を理解して選択してほしい。なお、他校の事例においても、受検指導をしていない状況である。

(質問・意見)

グローバル教育について、高校の希望者が海外留学に行くことができるようであるが、時期や期間等、現段階で決定していることはあるか。

(県教委)

文部科学省の「トビタテ！留学 JAPAN」を始め、留学に関する様々な制度があり、県としても、支援をしているところである。長期休暇中の短期留学プログラムは、民間を含めて非常に多くあるものの、山形県からの利用者は少ない。費用の補助があるものや姉妹校として提携しているものがある。SSH の中でも、このような取り組みをしているところがある。グローバル教育についての具体的な検討はこれからになるが、以上のような制度を活用していくことも考えていきたい。

以上